

2007年 21号



こうじん

題字 理事長 北川 宏

発行元
医療法人社団 宏仁会小川病院
〒355-0317 埼玉県比企郡小川町原川205
電話 0493-73-2750 FAX 0493-72-5192
発行者
理事長 北川 宏
発行日
平成19年12月22日



宏仁会高坂醫院

目次

宏仁会高坂醫院開院	1 ~ 6
石井 栄先生、山田先生を迎えて	7
平成19年度を振り返って	8
第30回日本スリーダーマーチと消防訓練	9
平成20年度の主な事業計画案	10
人事往来	11
編集後記	11

宏仁会高坂病院の開院について

宏仁会高坂病院の開院までの経緯は宏仁クリニックの開院から始まる。平成13年2月1日の医療法人認可は分院と開院届出の必要な事項でした。この認可是初代事務長松下昌宜氏の労苦の賜でした。当時小川施設では東西山市内からの直行通院患者数が小川全体の25%にも達していました。市内へ直行施設の要請があり、それに応じて平成3年5月1日には開設された。相原幸准院長以下職員3名で発足でした。平成4年10月には相原院長富田新院長の歓送迎会が深谷大谷家であり、それ以後富田院長のことで診療は続かれました。やがて患者増加を機に宏仁クリニックの移転拡充計画が持ち上がりました。この新しい仕事への取り組みに驚き私の年齢への幾分か躊躇がありました。然し生命は天のみを知る杞憂よりも未知の海への冒険こそ、天命に従い舟旅に比喩される事業の企画へ舵を取れ。その時行く手への困難と葛藤収拾、何れにしても平坦ではありませんが得た一歩が予測され。その後より準備段階にあたったが、平成17年10月21日基本設計監修を依頼することになりました。久保田国際大学教授久保田秀男氏との連絡上等でした。これにて指針は定期建築設計と平行して建築確認農地転用の申請や人事への動きが開始された。年月が経過する中で山積みの細かい問題は予想外の展開となり建築実現への礪石は定まらず。その後久保田氏設計の富山県長岡川病院への見学となり2回目は右郡建設も同行した。平成18年2月同氏設計の福井済生会病院の患者室視の外来機能の実地観察したのに啓発されました。例えは腹痛受診患者の内科や外科の内科における判断が必要な時は、患者を移動させず医師が動いて今案は設計システムであった。当時長谷川病院理事長より久保田氏との巡り合わせと評価され、推薦の言葉もあり大いに前進への意と強くした。久保田氏の設計への取り組みは建築設計への領域と起きて我々に影響を与え医療人として患者に対する考え方や契機ともなる。この直線的な設計方針に基づき職員との討議は続かれ、設計への考え方や個面に適格に反映された。工事は平成18年10月7日地鎮祭に始まり年末から現場事務所での準備段階、平成19年初頭からその工事日程に従って進められました。設計会議は仁テック・吉川昭氏も参画され、久保田氏吉川氏による柔軟を尽くす右郡建設上の会議は一段と緊張し厳しさと増した。右郡建設はこれに呼応し有終の美を飾る建築と平成19年9月末日に完成した。開院は10月15日で山田祐一院長以下職員15名で整足後、設計から工事完了に至るにかけた担当職員、その業務をカバーしてくれた各部署の職員が全て元の仕事と続ける事が出来た。これに各院長全職員の協力に感謝の意を表す。開院と同時に宏仁会理念が玄関入口ローランジへ掲示された。その掲示は仁義恭徳、和智留善、至誠至善、胸壁健翠である。これに訓とづく全文を記述すると（仁に親しみ徳と積み和恵有は毒



平成18年10月7日に行われた地鎮祭の様子



深夜まで及ぶこと多かった設計会議の様子



平成19年10月21日、グランドホテル深谷にて行われた竣工開院記念パーティーの様子

を増し生命長く高坂醫院（ひにじんじゆのすへても皆様の健康と寄ります）と言ふのがその大意である。我々医療人は日常多くの人々と接するが、その時の言動は常に医療行為と周知していく。その本心とき衆を愛する心を持ちその日常と優しい人情でもて貢献されると周囲に広がる事か出来ればまさに世の一端を担う事となる医療の原点となる致る。開院式当日埼玉医科大学附属病院内科学教授鈴木澤南先生が思ひも寄らず高坂醫院名称と仁義と愛の心に触れて宏仁会理念に共感を示された事は我々宏仁会への励ましの宝集となりた。宏仁会はトヨタ診療所から26年創業期と経て次世代による守成の期となりた。事業は継続か使命でありその為の人事刷新も外部からの冷静な判断が働き事業継続への支援態勢も動き出した。創業期と経て守成への道筋とつけることは、私に課せられた責務と考える。ここで古い文字醫を入れた院名について見解を述べる。院名は数多く定められたが最終的には宏仁会高坂醫院と命名された。医療に携わる我々にとって現代医学の先端を行く医学も、それだけでは解明出来ない医療の現実がある。その現代医療の限界を超える疾患に対し医療者は精神的にそれを支える精神基盤とか必要である。ここに學問の底から包み込むべき医療の精神基盤若狭舟という號語がある。この中の學と醫學と置き換えると醫學の精神基盤若狭舟となる。これと意訳すると医学の海は崖から程広くその海を渡る舟を作ることは苦心行はと読みにいく。何れにしてもそこからと深さには立派盡にありざるを得ない。醫の字の癒は古代医術の方法では病魔を打ち祓うの意味で又医術には古くは巫術(神主の巫舞)や草薙湯などと開いたのがち祓・醫の字が作られた。英語のspiritは靈魂精神心を意味するが語尾にsがつたspiritsとはと酒の意味し医療にもこれを靈符として用いられてゐる。古い医術の中にも現代に生きるものがあり、故きと伝わる新しさを知る。豊臣秀吉の心構えも必要であることを意味している。さて院名は古い字であるか新しい医学に基く医療実践が主体であることは言うまでもない。醫の文字は院名に用いることに主とし、通常用いる字は医を使つ方か便利で慣用的にもそれが自然であろう。院名にはこうした精神の意味を込めて命名である。10月21日開院式でも述べたが、第二の創業期と守成の期を同時に迎えるこれまでの医療と運営は宏仁会はひとつ大仕事である。これを成し遂げた事か當面の大なる目標である。ひと大半以上は全職員の協力と調和であり着実な運営である。ゆづくりと着実に事を進めて始めて目的へ到達する意でSlow and steady wins the race.の諺がある。これからも着実な診療と運営を目指したい。開院式では埼玉医科大学附属病院内科学教授西村宗敬先生の心臓する声援の祝辞と埼玉医科大学名誉教授工肥豊先生の懇切丁寧の激励の言葉があり浮説にこの稿を終わる。

平成19年11月10日

北川宏



宏仁会理念が掲示されている1階アメニティラウンジ



玄関に掲示された「宏仁会高坂医院」のサイン



古墳の見える屋上 日本庭園

宏仁会高坂醫院の開院を迎えて

広島国際大学 社会環境科学部環境デザイン科
久保田 秀男

拙著「患者に選ばれる病院づくり」をお読み頂いた北川理事長様からのお話で設計を始めてから、早2年が経ち、この度、完成と開院をお迎えになられましたこと、誠におめでとうございました。

過日、当学の教員が「頑張るとは、我慢することだ」と学生に言い聞かせているのを聞いて、なるほど、と私も反省することばかりでしたが、設計から工事まで、理事長様を始めとする幹部やスタッフの方々の「我慢」による「頑張り」の賜物だと思います。開院式当日には、それを祝うかのように、3階の「富士見ラウンジ」から初めて富士山を見ることができました。私の母の名が「フジ」で、周りからいつも「フジサン、フジサン」と呼ばれていたことから、富士山には格別の思いがあります。また、晴れがましくもパーティーで歌まで歌わせて頂き、特に記憶に残る一日となりました。

さて、設計の目標として、これまで「患者さんのために」とか「家族のために」と言わされてきましたが、今、「スタッフのために」が注目されています。「本来、患者が望むのは医師他の優れたスタッフによる医療であり、建築ではない」という考えから、優れたスタッフが集まり働きやすいように環境を改善する、そしてそれが結果的に「患者さんのために」なる、という筋書きです。拙著にある「患者によし、スタッフによし、コストよし」の三位一体の追求や、「快適で機能的な業務環境が患者サービスに通じる」に相当します。また、医療環境の変化に比べて建築の寿命が非常に長いことからは、「将

来でつくって、今を使う」あるいは「今も将来も使える」ことを目指しました。

また、いくら良い建築でも、実際の運用と合っていなければ、良い建築とは言えません。「我慢」比べの喧々諤々の打ち合わせは、非常に意味のあることでした。運営やサービスの改善を考える場であり、スタッフの方々が他の部署のことを知り、全体のことを知り、そして病院の将来のことを考えるチャンスでもあったことからは、新しい建物ができたということだけでなく、そのプロセス自体に大きな収穫があったと思います。

患者さんに対する医療と同じように、建物の「健康管理」を、そして、時代の要請に合わせて改修もしながら、その長寿をまとうすることができれば、この上もなく幸なことです。この建物とともに、新しいクリニックと貴法人の益々のご発展を祈念いたします。



新施設を説明中の久保田先生

宏仁会高坂醫院内覧会 平成19年10月7・21日 竣工・開院パーティー 平成19年10月21日

季節が夏から秋に変わり始めた頃になると、いよいよ北川理事長はじめ、職員の待ちに待った高坂の新クリニックの開院が近づいた。旧「宏仁クリニック」改め「宏仁会高坂醫院」に変更された名称を見るにつけても北川理事長の「思い」を感じ、平成17年3月の職員総会での新規事業の計画発表が思い起こされた。

10月に入ると、日曜日を利用しての患者様内覧会、自治会・近隣関係者様内覧会が行われた。特に透析患者様は手狭だった宏仁クリニックに比べ明るくゆとりのある新しい施設に顔をほころばせているのが印象的であった。10月15日の移転、開院に向けての引越しの準備も無事に済み、山田院長のもと、宏仁会高坂醫院としての新たなスタートが切られた。次の日曜日はまさしく富士見ラウンジからの富士山がよく見える、秋の澄んだ空気を感じさせた一日であった。玄関ホールにはお祝いの胡蝶蘭が所狭しと並べられ所轄行政関係者様ほか招待のお客様の内覧会が行われた。病院のイメージするものとはおおよそ違う外観や内装に建物のあちこちで驚く声を耳にした。引き続き夕刻からは竣工・開院パーティーが深谷グランドホテルで盛大に催された。よく「人は環境をつくり環境は人をつくる」と言われるが、ハード、ソフトの両面で充実した施設づくりを心掛けたいと思う。美味しいフルコースのお料理を頂きながら未来の宏仁会高坂醫院に思いを馳せた。

編集委員・飯野 記



受付カウンター



受付ロビー



受付後



外来中待合の間接照明

宏仁会 高坂醫院
内覧会風景



富士見ラウンジ



こうじんホールでお話しをされる理事長



ゆとりのある落ち着いた透析室



透析室を見学



透析待合室にてくつろぐ患者様



古墳が見渡せる食堂



外来診察室を説明中の久保田先生

宏仁会 高坂醫院
竣工・開院パーティー

平成19年10月21日



埼玉医科大学 心臓内科教授
西村 重敬 先生



埼玉医科大学 腎臓内科教授
鈴木 洋通 先生



広島国際大学
社会環境科学部 環境デザイン科教授
久保田 秀男 先生



高坂スタッフ



埼玉医科大学 名誉教授
土肥 豊 先生



大谷常務を囲んで



埼玉医科大学 放射線科技師長
和田 幸人 先生



えのもとクリニック 院長
榎本 信哉 先生



熱唱中!!



和やかに歓談

石井栄医師、山田裕一医師 就任歓迎パーティー 平成19年10月7日

石井 栄先生、山田裕一先生を迎えて

宏仁会小川病院 医療事業部 清水 宏

このたび、平成19年8月に石井栄先生が東松山市民病院、山田裕一先生が埼玉医大国際医療センターより常勤医師として就任されました。

先生方には以前より、透析患者様と循環器疾患の患者様に特に手厚い診療をしていただき、誠にありがとうございました。この場をお借りし深く感謝申し上げます。

宏仁会は透析を中心に、睡眠障害医療及び一般外来の地域医療に貢献してきた医療機関です。これからも両先生方の専門分野であります循環器医療を中心、長期透析患者様や外来患者様により良い医療が提供されることを願っております。

スタッフとの関係も重要な事で、職員同士のコミュニケーションの良さはやがて患者様にも反映し、地域の医療機関としての評価にもつながっていくことでしょう。これから時間をかけて、より良い人間関係を作っていただけるものと確信しております。

同世代という事で、これからこの医療についてお話を伺う機会もあり、刺激されることが多く、私にとっても日々勉強になっております。これからも、より患者様から信頼される病院づくりを目指し、先生方のホスピタリティの精神に協調し、職員一同頑張っていきたいと思います。



石井先生



山田先生



平成19年度を振り返って

3月 第8回職員総会、職員歓送迎会開催

特別セミナーとして吉田院長のMRSA等院内感染対策委員会から「結核対策」についての講演がありました。職員歓送迎会では勤続25年近重元看護師顧問の退職が発表されました。

4月 第104回日本内科学会開催（大阪）

各施設より吉田院長、富田院長、吉川院長の3名が出席されました。3院長そろっての参加は宏仁会開設以来始めての事でした。

7月 第2回ミニコンサート開催（ボランティアによる）

7月7日、「ボスケデュオ」によるギターコンサートでした。患者様も職員も楽しみな行事の1つとなりました。



9月 第7回3施設合同研修会、公開市民講座開催

午前の部では透析患者様の永年表彰受賞者代表・田島包子様、患者様代表・白石英雄様より挨拶をいただきました。

続いて埼玉医科大学教授鈴木洋通先生の「いきいき透析ライフ」と題した特別講演がありました。

10月 宏仁会高坂醫院開院

施設内覧会・引越し等も無事に済み、山田裕一院長のもと10月15日念願の新クリニックが開院となりました。



第30回 日本スリーデーマーチ参加 平成19年11月4日

秋晴れの中、参加者はそれぞれ5km、10kmコースと分かれてのスタートです。もちろん今年も全員完歩しました。



消防訓練 平成19年10月2日

初めての職員も多かったようです。まるで本番さながら。話を聞く姿も真剣です。

平成20年度の主な事業計画案

宏仁会 3 施設の主要な事業計画を情報誌「こうじん」をお借りしてお知らせいたします。

- 3月15日(土)
第9回 職員総会・職員歓送迎会開催予定

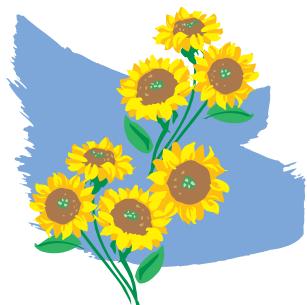


- 4月11日～13日(金～日)
第105回 日本内科学会開催（東京）

- 5月1日(木)
東松山 創立記念写真撮影実施
東松山宏仁クリニック（第13回）：平成7年5月1日開院

- 5月30日～6月1日(金～日)
第51回 日本腎臓学会開催（福岡）

- 6月20日～22日(金～日)
第53回 日本透析医学会開催（神戸）



- 6月25日～26日(水～木)
第33回 日本睡眠学会開催（郡山）

- 7月中旬
第5回宏仁会納涼祭開催予定

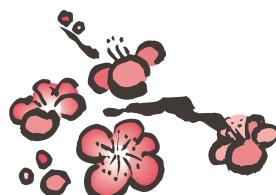
- 9月7日(日)
第8回 3施設合同患者研修会・公開市民講座開催予定

- 10月5日(日)
第13回 宏仁会3施設合同職員勉強会開催予定

- 10月15日(水)
高坂 創立記念写真撮影実施
宏仁会高坂医院（第1回）：平成19年10月15日開院

- 11月29日(土)
小川 創立記念写真撮影実施
宏仁会小川病院（第27回）：昭和56年12月2日開設

- 12月27日(第4土)
平成20年度 忘年会開催予定





冬至冬中冬始め、と言われるようになりよいよ寒さも本格的になってまいりました。

冬至は一年で最も日が短く、この日を境に昼間の時間が延びて行くことから、古くは新年の起点として考えられていきました。また生命の終わる時期、死に一番近い日とも言われており、この日は冬至かぼちゃを食べて金運を祈り、冬至風呂（柚子湯）に入って無病息災を祈りました。

「とうじ」は湯につかって病を治す「湯治」にかけた一つの願掛けで、さらに「柚子」も「融通がききますように」との願いが込められていたようです。柚子の強い香りには邪を祓う力があると信じられ、またかぼちゃを食べると魔よけになり中風や風邪にかかるない、冬至に「ん」のつくものを食べると運がつくとのことで、お金に困らないなどと言われていました。因みにかぼちゃの別名は「なんきん」。どちらも寒く不安な冬を乗り切るための昔の人の知恵と工夫を感じられます。

さて飽食の時代に生きる我々はせめてバランスの良い食事を摂り、不規則な生活を控え体調を崩さないよう気をつけたいものです。

どうぞ、来年も良い年でありますように。



編集後記

北国から紅葉の便りが届き始め大地が実りの秋を迎えた10月15日、宏仁会高坂医院の診療が開始されました。短期間での引越しや診療準備にと担当された皆様方大変お疲れ様でした。すばらしい施設に圧倒されます。晴天には3階から日本一の富士山が望めるそうです。他施設勤務にてなかなかチャンスがないのですが1度是非あ目にかかりたいものです。東松山宏仁クリニック（A.O）